

☆ Society of Japan Clinical Dentistry ☆

2015年度 東京 SJCD 第2回例会のご案内

初秋の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて来る11月1日に開催されます2015年度東京 SJCD 第2回例会につきましてご連絡申し上げます。今回はインサービストレーニングとしては前日の古希のお祝いに続き最高顧問山崎長郎先生がご登壇されます。
また今回のケースプレゼンテーションは土屋賢司先生にチェアマンをお願いし、矯正治療を応用した症例をお持ちの4名の先生を集めていただきました。インターディスプリナリアプローチはSJCDのテーマの1つでありディスカッションが盛り上がるのは間違いなしです！
皆様お誘い合わせの上、ご参加頂けますようお願い申し上げます。

日時 2015年11月1日（日） 受付開始 9:30 / 開演 10:00～17:00

会場 都市センターホテル/コスモスホール 3F

所在地 〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-1 TEL 03(3265)8211

※入場証について：必ず個人のQRコードをダウンロードしてお持ちくださいませ。

-インサービストレーニング- 山崎 長郎 先生 原宿デンタルオフィス

『 修復治療の新たなる展開

— Restorative Update 最新のマテリアルとそのシステム — 』

-ケースプレゼンテーション-

『 補綴治療を考えた矯正治療 』

松尾 幸一 先生 医療法人社団幸友会 中野デンタルクリニック

『 Incisal edge position と gingival level 改善の為にインプラントアンカーを使用した1症例 』

武川 泰久 BiVi 歯科クリニック

『 矯正治療及び修復治療にて対応した1症例 』

上野 博司 先生 上野歯科

『 Comprehensive Treatment Planning of Debilitated Dentitions 』

構 義徳 先生 六本木カマエデンタルオフィス開業

山崎長郎（やまざきまさお）

（略 歴）1945 年 長野県生れ

1970 年 東京歯科大学卒業

1974 年 原宿デンタルオフィス開院

東京 S. J. C. D. 最高顧問

S. J. C. D. インターナショナル会長

修復治療の新たなる展開

(Restorative Update 最新のマテリアルとそのシステム)

現代の歯科修復治療には、マテリアルの革新・開発により大きな変化がもたらされている。しかも、その発展と進歩の速度は、私達の予想を遥かに超えるものとなっている。

一方、患者サイドにおいても、様々な媒体・分野から情報・知識を得、従来の修復治療より更に一步進んだ審美性を望む声が高まりつつある。

我々歯科医は、これらの変かしつつある状況を確実に把握し、新しい世紀の新たなる審美修復治療の形を確立していかなければ、この 21 世紀に取り残される事になるであろう。

歯科修復治療のステップアップを目指す先生方の為、最新の審美修復治療の手法と背景が、過去の修復治療からどのように変化してきたか、それに付随する治療計画の変更はあるのか、また使用するマテリアルの正しい選択法・使用法などを中心に、最新の修復治療の現在を、あらゆる角度から検討しようと思う。

松尾幸一

略歴： 平成 7年 3月 日本歯科大学卒業
平成 7年 9月 須藤歯科医院（埼玉県戸田市）勤務
平成10年 4月 あいはら歯科医院（東京S J C D理事）勤務
平成12年10月 中野デンタルクリニック開設

所属： 日本口腔インプラント学会
日本顎咬合学会
日本歯科審美学会
O J 正会員
U S C 客員研究員
東京S J C D ベーシックコースインストラクター
株式会社シロナ公認インストラクター
株式会社ジーシー公認インストラクター

抄録： 私たちが歯を削る時、メスをいれる時、必ず明確な理由があります。補綴治療において矯正治療を取り入れる時も同様で、どうして矯正治療を行うのか、目的は何かを明確にしなければなりません。矯正治療でも補綴治療でも第一優先は咬合であることは言うまでもなく、修復治療が絡む場合にはどのような Tooth Position に矯正治療のゴールを決めるかを術前に明確にして治療をスタートしなければなりません。今回お話しさせていただくことは、私が日常臨床の中で考えている修復治療を良い状態で Finish するための矯正治療の使い方、考え方を述べさせていただき、矯正治療を含めた咬合再構成という補綴治療の中で、戦略的に矯正治療を用いる有用性を説明していきたいと考えています。

武川 泰久 (埼玉県 BiVi 歯科クリニック開業)

略歴：

2004年 明海大学卒業

2004年～2006年 東京医科歯科大学研修医修了

2006年 都内医療法人入社

2008年～同法人理事、埼玉県内矯正歯科医院勤務

2012年～2014年 New York University Continuing Dental Education Programs 修了

国際インプラント学会 (ICOI 米国) 認定医取得

日本臨床歯周病学会認定医取得

BiVi歯科クリニック開業

演題：

Incisal edge position と gingival level 改善の為にインプラントアンカーを使用した
1 症例

抄録：

歯科治療を審美的な側面から考えた場合、歯冠の形態・色調はいうまでもなく顔貌、口唇周囲を含めた審美性、Incisal edge position、歯肉と歯の関係すなわち gival level も含めた治療計画が必要となります。なかでも、Incisal edge position と gival level については補綴での修正に限界がありますので術前に正確な評価・診断をし、適切な補綴前処置をしていく事が大変重要であると考えております。その術前の評価・診断、治療計画の際に矯正学的視点を加味して行う事で治療計画や治療自体を単純化できると考えております。今回はインプラントアンカーを利用し治療を行った症例を提示させて頂き、皆様と多くのディスカッションを行い、御指導をして頂きたいと思っております。

名前 上野博司 (ウエノ ヒロシ)

所属 東京 SJCD

日本顎咬合学会

日本矯正歯科学会

経歴 1996年 日本歯科大学卒業

1996年 東京都内の歯科医院にて勤務

1999年 上野歯科勤務

2006年 同院長

演題

「矯正治療及び修復治療にて対応した1症例」

抄録

矯正→修復、という一連の治療を臨床に取り入れることにより、下顎位が改善する、低侵襲な施術になる、などより優れた臨床結果を得ることが多々あると感じている。と同時に、治療の可能性が広がるあまり、治療計画が煩雑化してしまい、手技的な複雑化、非現実化しないような配慮をする必要もある。

当該患者は歯冠形態・歯列・咬合等に様々な問題を有する40代女性。矯正治療および修復治療を必要としており、それぞれ術者自身で施術を行った。日々の臨床では、治療方法について様々な選択肢があるケースの割合は多く、常々頭を悩ますことになる。本症例も、治療の優先順序や何をもってベストを尽くすことになるか、について苦慮することになった。今回こういったことを踏まえ本ケースを供覧したいと思う。

名前 構 義徳 (カマエ ヨシノリ)

所属 東京 SJCD 会員

日本補綴歯科学会 会員

日本口腔インプラント学会 会員

経歴 1999年 愛知学院大学 歯学部卒業

1999年 タツキ歯科 勤務

2002年 東京 SJCD レギュラーコース受講とともに上京
その後都内の歯科医院に勤務

2013年 六本木カマエデンタルオフィス開業

演題 “Comprehensive Treatment Planning of Debilitated Dentitions”

抄録

日々臨床を行っていると、さまざまな患者さんの状態と出くわし、

頭を悩まされる。骨格的な問題に加え、欠損、咬耗、破折、弱った歯周組織、カリエス、顎関節症などを伴う場合はなおさらである。

今回、そのような患者さんを治療するにあたりどのように考え、仕上げていかなければならないか1つの症例を通してみなさんとディスカッションしていきたいと思ひます。

〈 オンライン質問ツール 〉

(賛助会員 株式会社 GENOVA 協力)

「会に参加していて疑問に思ったが大会場での質問は、はずかしい……」

という方のために。

今回もオンライン質問ツールを導入します。

演者に対しての疑問や不明点をオンラインにて集計し、回答を頂けます。

当日、QR コードを配布致しますので、QR コードからアクセスして頂きご質問下さい。

アクセス対象端末は

- ・ PC
- ・ スマートフォン
- ・ タブレット

以上の3種になります。

【事前準備のお願い】

Android 端末には予め QR コードリーダーがインストールされておりますが、
iphone・ipad をお使いの方は、事前に App Store にて「QR コード」と検索し
QR コードリーダーをインストールしておいて下さい。